

アステラス製薬の温室効果ガス削減目標が 「Science Based Targets (SBT) イニシアチブ」の 承認を取得

アステラス製薬株式会社(本社:東京、代表取締役社長 CEO:安川 健司、以下「アステラス製薬」)は、当社の中長期的な温室効果ガスの排出削減目標が、「パリ協定」における「2℃目標」を達成するための科学的な根拠に基づいた目標であると認められ、環境に関わる国際的な団体である Science Based Targets (SBT) イニシアチブ*1 から承認を取得しましたので、お知らせします。

アステラス製薬は、世界の人々の健康に貢献する製薬企業として事業活動を継続するとともに、持続可能な社会の発展に貢献していくため、気候変動などの環境課題への対応を経営の重要課題と位置付けており、温室効果ガスの排出削減やエネルギー使用効率の向上に取り組んでいます。こうした取り組みの一環として、「パリ協定」の目標を達成するために、2019年3月期からの環境行動計画において、すべての事業活動を評価対象とする温室効果ガスの排出削減目標を新たに設定しました。この目標が科学的な根拠に基づいた目標であるとして、このたび SBT イニシアチブが承認したものです。新たに設定した目標は以下のとおりです。

- 温室効果ガスの排出量(スコープ 1+2)*2を 2030 年度までに 30%削減する(基準年: 2015 年度)
- 温室効果ガスの売り上げ当たりの排出量(スコープ 3)*2を 2030 年度までに 20%削減する(基準年:2015 年度)

アステラス製薬は、気候変動など世界的な環境課題の解決に向けて引き続き取り組んでいきます。

以上

***1 Science Based Targets(SBT)イニシアチブ:**2015年にCDP、国連グローバルコンパクト、世界資源研究所、および世界自然保護基金の4団体が共同で設立した団体。2015年に採択された「パリ協定」の「2℃目標」達成に向け、国だけではなく企業にも温室効果ガスの削減目標の設定などを働きかける国際的なイニシアチブ。

***2: スコープ:**温室効果ガスの排出量の算定範囲

スコープ1:自社で使用した燃料に伴う温室効果ガスの直接排出

スコープ2:購入した電力の使用に伴う温室効果ガスの間接排出

スコープ3:原材料調達や製品使用など、サプライチェーンでの温室効果ガスの排出

アステラス製薬について

アステラス製薬株式会社は、東京に本社を置き、「先端・信頼の医薬で、世界の人々の健康に貢献する」ことを経営理念に掲げる製薬企業です。アステラス製薬の詳細については、(<https://www.astellas.com/jp/>)をご覧ください。

注意事項

このプレスリリースに記載されている現在の計画、予想、戦略、想定に関する記述およびその他の過去の事実ではない記述は、アステラス製薬の業績等に関する将来の見通しです。これらの記述は経営陣の現在入手可能な情報に基づく見積りや想定によるものであり、既知および未知のリスクと不確実な要素を含んでいます。さまざまな要因によって、これら将来の見通しは実際の結果と大きく異なる可能性があります。その要因としては、(i)医薬品市場における事業環境の変化および関係法規制の改正、(ii)為替レートの変動、(iii)新製品発売の遅延、(iv)新製品および既存品の販売活動において期待した成果を得られない可能性、(v)競争力のある新薬を継続的に生み出すことができない可能性、(vi)第三者による知的財産の侵害等がありますが、これらに限定されるものではありません。また、このプレスリリースに含まれている医薬品(開発中のものを含む)に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

お問い合わせ先:

アステラス製薬株式会社

広報部

TEL: 03-3244-3201 FAX: 03-5201-7473